

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590800086		
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム岩国平田		
所在地	山口県岩国市平田5丁目27-55		
自己評価作成日	平成27年10月21日	評価結果市町受理日	平成28年3月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

愛の家は、全国230箇所以上のGHを展開させて頂いております。愛の家グループホーム岩国平田は、中四国九州エリアと地域としては広いですが、他の愛の家との情報共有が行える体制を作っており他ホームへの行事手伝いに参加しております。又、ホームでの「夏祭り」等を通じて、地域との連携を意識した運営を実践しております。又、各ユニットでケアに対する拘りを、スタッフ間で話し合い実践することで、ご利用者様が日々充実した時間を過ごせる様配慮しております。現在はスタッフ数も充実しておりますので、「その人らしい生活」が営まれる様、個別支援に関しても、対応しております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議に初めて利用者2名が参加され、入居してからの思いや今後の希望、やりたいことなどを話される機会があり、利用者の思いや意向の把握につなげておられたり、家族からの情報を取り入れられて、広島市内見物、ドライブと足湯利用、外食、買い物など職員の人数を確保されて、個別支援に取り組まれています。管理者は、月1回の全体会議やユニット会議の他、年数回の職員との個別面談の場で職員の意見や提案を聞かれサービスに活かしておられる他、職員とのコミュニケーションを図り、職員が意見を言いやすい関係をつくれるように、内部研修にディスカッションを採り入れるなど工夫されています。外部研修においても、事業所が勤務の一環として提供している研修以外に、職員が個人で希望している研修でも、内容によって勤務の一環として参加できるように支援されているなど、職員を育てる取り組みをしておられます。事業所の理念の他、各ユニットの特徴を生かした目標を決めて、共有され、理念の実践につなげておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「錦帯橋のように私たちは地域の架け橋になります」という事業所独自の理念を各ユニットに掲示し、又各ユニットでケアに対する拘りを決め、合わせて掲示しております。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり事業所内に掲示している。理念の持つ意味について共有理解ができるよう職員間で話し合い、各々のユニットの目標を事業所内に掲示して、理念の共有と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会に加入し、町内会の清掃・運営推進会議などの参加の声掛けを行っています。地域への日常的な散歩を行っており、近所のスーパーなどへの買い物も行っています。又近隣幼稚園の定期訪問・夏祭り等ホームへ足を運ぶ機会を設けております。	自治会に加入し、総会への参加や年1回の河川清掃には職員が3名参加している他、回覧板を回したり、散歩や買い物に出かけた時に挨拶を交わしたり、地域の人からの野菜の差し入れがあるなど、日常的に交流している。事業所主催の夏祭りには、地域の人の多くの参加があり、事業所を地域の人に知ってもらう機会となっている。近隣の施設のバザーへの参加、平田地区の敬老の集いに参加している。幼稚園児が年4回来訪し、歌や踊りの披露の他、園児がついた餅を利用者に配るなどのふれあいがある。利用者家族から紹介のあったホルン演奏者や年配者で構成した一座の余興や歌、踊りなどの披露の他、押し花でうちわや暑中見舞い状などをつくるボランティアの来訪がある。高校生の職場体験や民間企業の初任者研修の職業訓練を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域自治会に入会させて頂き、地域の夏祭りや、敬老のつどい等に進んで参加しております。又ご家族様・地域の方々からの相談・問い合わせに対し、真摯に対応しております。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価の及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前回同様、評価して頂いた内容を全スタッフに周知し、又前回同様、全スタッフが前回内容を参考に作成に携わってもらっています。	管理者が評価の意義について職員に説明し、各ユニットで職員全員で話し合ってまとめたものを管理者がまとめて自己評価を作成している。評価を活かして、ユニットごとにケアの問題点について話し合い、各ユニットの特徴を出す目標を決め、個別支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	社内での規定で、2ヶ月に1回必ず運営推進会議の開催を掲げていますので、行うようにしています。ホーム運営・災害時の協力・ホームでの食事を試食していただき、意見を集約・成年後見人の方による制度のミニ講演を実施しております。	会議は年6回開催し、現状の報告や意見交換をしている。成年後見制度についての勉強会や試食会の開催、利用者が2名参加して入居後の感想と今後の希望について話をしている。災害時についても話し合っているが、参加メンバーが少なく日程の調整など検討している。	・参加メンバーの拡大
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談等あれば、電話や直接出向いて助言を得ています。又、市からの伝達等に関しても、メール・FAX等で随時確認し、市が主催する集団指導・年1回開催される市内GH協議会との話し合いにて意見交換をしております。	市の担当者とは、電話やメール、直接出向いて相談し助言を得ている。市が主催する集団指導やグループホーム協議会で意見交換し協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは運営推進会議や地域ケア会議で情報交換し、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社全体のマニュアルもあり、身体的な拘束だけでなく、言葉による拘束もあると全体会議などの時間を使い話し合いを行っていません。又現場内でも拘束に繋がらない様、都度指導しています。	マニュアルがあり、内部研修で法人配布の資料を使い研修をしている。言葉による拘束については全体会議でも話し合い、業務の中で管理者が指導している。薬についても正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠していない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社全体のマニュアルもあり、言葉・身体・投薬等の虐待にあたる勉強会を行っていません。又些細な傷に関しても、必ず状況を確認し、虐待に繋がらないケアを実践しております。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、1名の方が成年後見人制度を利用しています。成年後見人の方に、運営推進会議内にて、制度に関するミニ講演をしていただき、参加可能なスタッフも話を聞かせていただきました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、ご家族様と重要事項説明書の読みあわせを行い、都度不明点などの確認を行っております。又、改定等の説明、疑問を抱かれておられるご家族様へは、個別で説明をし、理解していただいております。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会社全体の相談窓口を設けており、意見箱の設置もしています。また、本社主催のご家族様アンケートを毎年実施しており、ホームにフィードバックされ改善に向けています。ご家族様の意見を元にケアプランを作成、日々のケアに繋げています。	契約時に苦情受付体制と処理手続きについて家族に説明している。事業所の玄関に意見箱を設置している。運営推進会議や年2回の家族会、年1回の家族アンケート、面会時に意見や要望を聞いている。アンケートで居室の清掃や職員の雑談についての意見があり管理者が指導している。運営に反映させるまでの意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に数回スタッフとの個人面談を実施し、全スタッフから意見・要望等を聞き取りしております。毎月1回の全体会議やユニット会議でスタッフ同士の意見交換や提案などの反映も行っております。又都度現場に足を運び、個別にスタッフからの意見収集をしております。	月1回の全体会議やユニット会議の他、年数回職員の個人面談を実施し、意見や提案を聞いている。職員から個別に外出できるように支援したいとの意見があり、当日は職員配置を増やし個別支援を実現している他、法人から支給される外食費の使い方を工夫して、利用者が外食を楽しめるように改善しているなど、反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を通じて、それぞれが「やりたい事・特技」を委員会として実践しています。大きな行事には、実行委員会を設け、全員で1つの行事に取り組み、達成感を感じてもらっています。無資格のスタッフには、会社制度を利用しての資格取得を促しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内があれば、都度回覧し参加を促しています。又、毎月本社からの資料を基に、内部研修を実施し、新卒者に対しては、毎月エリア新卒者と合同での研修を実施しています。	外部研修は情報を職員に伝え、希望や段階に応じて参加の機会を提供している。職員が個人で希望する研修への参加も内容を検討して、業務の一環として参加の支援をしている。参加者は、報告書を提出し、全体会議で復命している。内部研修は年間計画を立てて、月1回開催している。事前に資料を配布して、職員は資料を読んで研修に参加している。時にはディスカッション形式を取り入れている。新人研修は法人で研修し1年後のフォローアップ研修も行っている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩国市のグループホーム協議会に入会させて頂き、情報共有しています。又、定期的に居宅・老健等に訪問をし、情報交換・収集に努めております。近隣施設とは行事等通じて、密に交流を図っております。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントに行かせて頂き、ご本人様にお話をさせていただき、ご本人様やご家族様が困っていることや、不安なことなど傾聴する事で、安心して過ごして頂けるよう努めています。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時には、ご家族様が不安なく利用者様を入居出来るよう説明を行い、いつでも相談できるような関係作りを構築しています。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様が必要としている支援を見極め、必要に応じ介護用具のレンタル等実践しております。又、サービスの変更(入院等)があった時などは、都度相談し、変更しています。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の不安な気持ちなど察し、ゆっくりと傾聴し共感できるような関係作りを行っています。スタッフ数も増え、より充実した時間を構築しております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の日々の状況などテーマを決め、又毎月の新聞発行と共に、お手紙を送付しています。ご家族様来所時には、コミュニケーションを通して細かな状況を伝えるようにしています。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院などに出かける機会・入居前に住んでおられた町へのドライブ、又馴染みの関係の方の来訪などがあります。今後も関係が継続していけるような関係作りを支援してまいります。	親戚の人や知人の来訪がある他、入居前に住んでいたところへのドライブ、馴染みの美容院の利用や園芸店での買い物、押し花ボランティアの支援を受けて年賀状や暑中見舞いのはがきをつくり送っている。家族の協力を得て法事や葬儀に出席したり、自宅での外泊など関係が継続できるように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全入居者様が出来る合同のレクリエーション・各ユニット毎のレクリエーション・個別に傾聴したり歌を唄ったりする個別レクリエーション・両ユニット合同食事会等通じて、仲良く出来る様、努めています。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院に、お引越しをされた際には、ご本人様・ご家族様には「何かお困りの時には、いつでもご連絡ください」と声掛けを行っています。退居後も、運営推進会議・ホーム訪問等継続してお越しいただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様のお話の中から、意向をお聞きしています。そして、ご家族様との会話の中から意向の把握に努めており、コミュニケーションの難しい入居者様の把握についてはご家族様に聞き、把握に努めています。入居前には、紹介して下さったCM等から、情報収集をしています。	入居時に本人や家族から聞き取った思いや意向の活用や日々の関わりの中で一人ひとりの意向を聞き取って記録し、思いや意向の把握に努めている。運営推進会議で利用者が思いや希望を言う機会をつくっている。家族からは面会時や行事の時、家族アンケートを実施し要望を聞いている。困難な場合は、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の生活歴や馴染みの暮らし方など、多方面からの情報収集に努めています。又、回想法等用いて、情報収集に努めております。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各勤務に入る前の申し送りやカンファレンス等で、日々の状態の把握に努めています。又各ユニットに「健康シート」を設置し、ご入居者様の健康管理を共有しています。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書は、社内で決められた様式があるので、その様式に沿って作成しています。また月に回のユニット毎のカンファレンスや困難事例に関しては、全体会議内、半年後とのスタッフによるモニタリングやアセスメントを作成、その他年2回の家族会での意見を元に、計画作成を行っています。	利用者を担当する職員と計画作成担当者が中心となり、本人や家族、主治医の意見を事前に聞き、毎月のユニット毎のカンファレンスで検討し、サービス担当者会議を開催し介護計画を作成している。サービス担当者会議に家族が参加をすることもある。3カ月毎にモニタリングを実施し、6カ月毎の見直しをしている。状態に変化があった場合はその都度見直し介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録・日報に加え、申し送りノート・健康シート等などで、職員間での情報共有を図っています。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のご希望に添えるよう来所時などにコミュニケーションを図り、意見を聞くようにしています。ご本人様との会話の中で、希望に添えるものはないかと日々支援しています。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーへ買い物に一緒にお連れしたり、近隣の散髪屋へカットに行ってます。又、近隣幼稚園との交流会やボランティアの受け入れをし、楽しく生活できるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院であるいしい記念病院・山元歯科に加え、2週間に1度のいしいケアクリニックDrによる往診があります。往診医とは、24時間連絡可能で緊急時も駆けつけて下さる関係が来ています。ご家族様によっては、別の病院を受診しておられますが、特変時は、ご家族様に連絡・救急対応をこちらでしております。	本人や家族が希望する医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関の月2回の訪問診療がある。その他の医療機関は家族と協力をして受診を支援し、医師へ利用者の状態について情報を提供をしている。夜間や急変時は、事業所の看護職員や協力医療機関、かかりつけ医、家族に連絡し対応しているなど、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医の24時間連絡体制と社内雇用の看護師との連携体制で利用者様の定期的な体調管理を行っています。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、サマリーを作成し、病院への情報共有し退院時は、看護サマリーを作成していただき、情報の共有が行えています。又、入居者が入院中は、スタッフがお見舞いにも行かせて頂いています。病院での状況を聞き、当ホームスタッフに伝えおり、退院後は状況に応じたケアプランの元、ケアをしております。一日も早く退院していただける様、ご家族様・病院と連携を図っております。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見学时や契約時に、看取り対してご家族様の想い、ホームでの対応について、お話しをしています。又折をみては、ご家族様の「想い」を確認しており、終末期の方に対しては、ご家族・往診医と連携し、対応しています。ご家族様の希望があれば、ホームに泊まっていただいております。	重度化した場合の指針があり、契約時に事業所でできることを、家族に説明をしている。実際に重度化した場合は主治医や看護師、家族など関係者で話し合い今後の方針を決め共有している。看取りに関しての研修を行い、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	主にヒヤリハット・事故報告書を基に、同じ事故が起こらない様、取り組んでいます。又、各ユニットにマニュアルを設置・急変時等には対応表を掲示し、誰もが対応出来る様配慮しています。全体会議内でも、事故防止・予防の研修を実施し、全員に資料を配布、必要に応じ確認してもらっています。	ヒヤリハット、事故報告書に記録し、再発防止に取り組んでいる。報告書は各ユニットに置き情報を共有し、ユニット会議や全体会議で話し合い、必要に応じてケアプランに反映している。急変時や初期対応の訓練として、心肺蘇生法、AED、気道の確保などの訓練を定期的に研修しているが、全ての職員に実践力が身に着くまでには至っていない。	・すべての職員が実践力を身につけるための応急手当と初期対応の定期的訓練の実施の継続

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、夜間を想定したものを含め、年2回開催しています。各ユニットにマニュアルも設置、夏祭りを通じ、近隣の方の訪問時、直にソフト面・ハード面を見ていただき、近隣の方々との信頼関係構築に努めております。	マニュアルを整備し、年2回火災訓練を昼夜想定し、消防署の協力を得て、通報訓練、避難誘導訓練、消火訓練を地域の人の参加を得て実施している。実際に火災報知機、エレベーター、スプリンクラー、非常口の開閉の緊急時の操作方法、階段での避難方法など全ての職員が対応出来るように訓練をしている。運営推進会議でも話し合い、近くの施設とも話し合い協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居前、入居後とアセスメントを行い、その人らしいケアについて、定期的にカンファ・サービス提供者会議を開催しています。又、スピーチロック・不適切なケア等、必要に応じ社内研修、スタッフ間でのディスカッション等実施しております。	研修やユニット会議、全体会議で定期的に学び、カンファレンス時に利用者一人ひとりを尊重したケアについて検討している。スピーチロックや不適切と思われるケアなど正しく理解し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の心の声に耳を傾け、口に出せない要望や悲しみ・苦しみなど受容できる様、心掛けております。又、必要に応じ、ご家族様からの情報収集に努めております。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の意思を尊重し、その人らしい自立した生活が安心して送れる様配慮しています。起床から食事・入浴等、生活全般の中で、その人の生活習慣を尊重した支援を心掛けております。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容・入浴後入居者様が着たいと思う服装を一緒に選ぶなどし、いつも若々しい気持ちで過ごせる様にしております。又、お出かけに行く際には、お化粧品などの支援も行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは、社内で決められた物を使用しています。又、下ごしらえ・食事の盛り付け・トレイ拭き・食器洗いなどスタッフと共にしております。朝食にパンを食されておられた方に対しては、個別での対応を実践し、食事が楽しめる様支援しております。	調理を担当する職員を確保し、法人からのメニューを参考にして、三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者は、買い物、野菜の下ごしらえ、調理、盛り付け、配膳、下膳、トレイ拭き、台拭き、食器洗いなどを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルで同じものを食べながら会話を楽しんでいる。利用者の希望に合わせパン食などの対応をしている。お菓子づくりや季節の行事食、外食など、食事が楽しめるように工夫している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様に合わせて食事の盛り付け量・食器等で工夫しております。又、苦手な食べ物などメニュー変更し、入居者様が完食できるよう支援を行っています。水分摂取量に関しては、都度量を記入し、把握に努めています。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、ご自身で出来る事は行っています。義歯の衛生管理も都度行っています。又、唾液がしっかり出る様、意識して話しかけております。ご家族様の希望があれば、外部歯科の往診を受けていただいております。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツ使用に関しては、安易にオムツを使用せず、定期トイレ誘導・パット使用等ご家族様と相談しながら、段階を踏んで検討しております。又、排泄チェック表で、排泄パターンの把握・誘導の目安として活用し、常に「自立」を意識しております。夜間失敗のある方には、原因追究と合わせ、必要なケアを検討・実践しております。	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、一人ひとりの状態に合わせた対応で、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排泄チェック表から個々の排便状況を把握し、各出社時申し送り時などに情報の共有を行っています。又ラジオ体操・風船バレーなど適度な運動や、水分量の把握・夕食時の乳酸菌使用等、体調管理に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2～3回の入浴支援を行っております。入浴を拒まれる方へは、時間・曜日別のスタッフが交代するなどして、無理強いくなく入浴して頂ける様、支援しています。夜間入浴に関しては、今後の課題として認識しております。	入浴は毎日可能で、10時から11時30分までの間と15時から16時までの間、一人ずつ湯を入れ替えて、利用者の希望や体調に合わせて、利用者と職員と1対1のゆったりとした時間を過ごしながらか入浴を楽しめるよう支援している。入浴を好まない利用者には、時間を変えたり、職員が交代して対応し入浴ができるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、眠れない方への安眠方法として、暖かい飲み物の提供を行い、一緒に過ごしお話を傾聴するようにしています。寝ることを優先せず、ゆっくりと過ごしていただいております。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携薬局薬剤師・看護師等から都度必要に応じ、確認をしています。又服薬マニュアルに添った服薬・変化が見られた際の様子観察など、「健康シート」に記載し、継続した対応を心がけています。又その人に合った服薬方法を実践しています。7月には、全スタッフ対象に、薬剤師からの勉強会を実施しています。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の食事準備・片付け・洗濯・掃除等、入居者様の嗜好などをご家族にお聞きし、ホームお手伝い等して頂けるよう支援しています。又将棋が好きな方には時間を見つけて、スタッフとコミュニケーションを図りながら指しております。	囲碁、将棋、トランプ、オセロ、新聞購読、手帳に食事のメニューの日記をつける、習字、ちぎり絵、はり絵、押し花でうちわや暑中見舞い状などをつくる、カラオケ、童謡や唱歌を歌う、買い物、散歩、職員の二胡やサックス演奏、ボランティアのホルン演奏を聴く、年配者で構成した一座の余興や歌、踊りを観る、近隣にある別法人主催のバザーへの参加、幼稚園児との交流、ラジオ体操、口腔体操、プランターの花や野菜の水やりや草取り、収穫、食事の下ごしらえ、盛り付け、おやつづくり、洗濯物たたみみ、掃除機をかける、ドライブ、外食、外泊など、一人ひとりのできることを把握し、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、張合いのある日々が過ごせるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ・買い物・散歩等、ご入居者様にお声を掛け、出来る限り外出の機会を設けております。個別に馴染みの美容室でのカットや、外の空気を吸いたいとおっしゃられる時は、付き添わせていただいております。スタッフ数も増え、特に個別支援に対しても、ご本人様のニーズ把握、実践を心掛けております。	散歩、買い物(スーパーや園芸店)、ドライブ(足湯)、季節の花見、地区の敬老の集いへの参加、近隣施設のバザーの参加、外食、自宅への外泊、個別支援で広島に出かけ、お好み焼きを食べ平和公園を散歩するなど、利用者の希望に合わせて戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは、ホーム内金庫でお預かりさせて頂いておりますが、ご本人様のご希望により、お財布に多少のお金をお持ちの方もいらっしゃいます。都度ご本人様が要望される物品を確認・一緒に買い物等へ行っております。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、ホーム内新聞送付時、入居者様からご家族様へ向けてのお手紙を書いていただき、送付しています。ご家族様が知り得たい情報の内容記載を意識し、毎月テーマを変え記入しています。ご本人様が、電話を掛けたい時にも速やかに対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室や廊下等に、行事・日常生活の様子など写真掲示し、ご入居者様やご家族様が楽しまれる様、工夫しております。裏の畑や玄関先には季節の野菜・花を植え、ご利用者様と一緒に水遣り等しながら、季節感を感じる様にしております。土地柄寒暖の差がある為、ご利用者様の状況を把握しながら、空調調整を行っております。	共用の空間の食堂は明るく、テーブルに季節の花を飾り、壁面には季節を感じられるように飾りつけをしている。日々の様子を撮影した写真を大きく引き伸ばして利用者が見えやすいように飾り、利用者の作品も掲示してある。台所からは調理の音や匂いがし、生活感が感じられ、明るさや温度、湿度に配慮して居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットホールのソファにゆっくりと寛いでおられ、時には、居眠りをされる入居者様もいらっしゃいます。そして、仲のよい入居者様同士の会話を楽しまれたり、他ユニットの方との交流されたり等、思い思いに過ごしていただいております。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される前に、ご家族様にお話しさせて頂き、入居者様の使い慣れたものを持ち込み頂き、居心地良く暮らして頂けるような支援を行っています。室内で転倒のリスクがある方に対しては、ご家族様とも相談し、リスク回避に努めております。	パイプ椅子、使い慣れた整理ダンス、布団、電子レンジ、冷蔵庫、ラジオ、テレビ、椅子、掃除機、本、新聞(個人購読)、家族の写真、時計などを持ち込み、本人が居心地良く過ごせるように支援している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じ、トイレ・居室にコールを設置しております。居室で過ごされる時には、いつでもコールを押せるような配慮をし、夜間は居室内・廊下共に夜光灯があり、足元を照らすので危険性のないような支援を行っております。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 愛の家グループホーム岩国平田

作成日：平成 28 年 3 月 7 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	5	運営推進会議を活かし取り組み	参加メンバーの拡大	・ご家族様の参加が少ない為、日時・時間等の調整をして、参加を促す。 ・地域のニーズに沿った議題を検討し、地域住民の参加を促す。 ・近親施設・他GH等への参加打診。	6ヶ月
2	35	事故防止の取り組みや事故発生時の備え	全スタッフの応急手当・初期対応の習得・訓練の実施を通じ、実践力の継続	・定期的な社内・外の研修。 ・ホーム内で発生（発覚）した全事故の共有及び、防止に努めたカンファレンスの実施。 ・各スタッフの現状スキルを把握し、その人に合わせた実践指導。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。